

はつらつ

Vol. 79



新春の御挨拶

院長 吉田秀明

一年という月日は瞬く間に過ぎ、再び新たな年を迎えました。

しかし、昨年から大きな明るい兆しもあります。それは余市病院に得難い人物を得たことと、地域からの補助が得られたことの二つです。

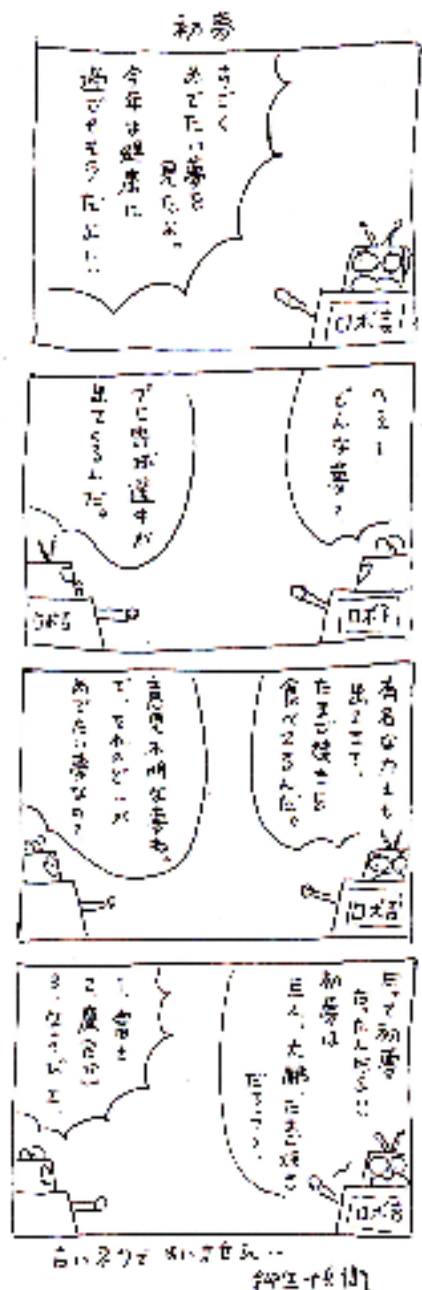
二点目の地域からの財政支援をいただいたことについてですが、これは「病院の赤字を埋めるため」ではなく、北後志の休日、時間外救急対応を維持するために、関連5町村の皆様の御理解と役場・議会の御尽力により実現したものです。ありがとうございました。総額で2千5百万円になりますが、この額は土日や年末年始の救急対応のために大学等から招いている出張医の人件費に相当します。余市病院の常勤医でやればいいじゃないかと思われる方もいらっしゃるでしょうが、当直できる常勤医は現在でも6名しかおらず、休日の救急まで手が回らないのが現状です。なんとか医師増員を図り、皆様の期待に応えるよう努力を続けてまいります。前段に述べたことと関連しますが、病院に優れた医師を招くには、病院だけの努力では不十分です。地域全体の魅力や御理解(行政の協力、住民の意識など)が必要です。どのような形でも結構ですので、引き続き皆様の余市病院を暖かく見守っていただきますようお願い申し上げます。

私が7年前に院長に就任して以来「自分の家族が病気やけがのとき、受診を勧められる病院になること」を究極の目標としてかかげてまいりました。そして、病院は「地域を支えるインフラの一つ」であること、「職員一人一人が貴重な戦力」であり、運営が苦しくても「人材育成には投資する」と、一貫して述べてきました。(詳しくはホームページの「ごあいさつ」と「総合診療医募集」の文書、および北海道医報に登載された私の小論 http://www.hokkaido.med.or.jp/etc/iho/iho_link/pdf/1055-14.pdf を御参照いただけると幸いです)これらの考えは今後も変わることはありません。毎年少しずつでも目標に近づけるよう努力を続けたいと思います。

なお、従来の病院の理念・目標に加え、日々の仕事をこなす上で少し具体的なスローガンを提案しました。

患者様の笑顔 地域への貢献 自らの幸せ です。

平成23年 元旦

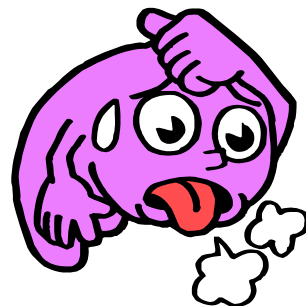


研修医リレーコラム33 「閉塞性動脈硬化症」

早速ですが、今回のテーマは「**閉塞性動脈硬化症**」です。これは手足の動脈が動脈硬化によって細くなり、手足の血行が悪くなる病気です。特に足の動脈によくみられます。喫煙・高血圧・糖尿病・高脂血症を持っていると、動脈硬化の危険が高まりますので、これらの生活習慣病への対策が重要になります。

診断には、喫煙歴やその他の生活習慣病の有無、間欠性跛行などの臨床的な症状を参照し、そして**下肢の血圧測定(ABI)**を行います。これに異常があれば、さらに下肢の血管造影検査を行い、血管壁の不整や狭窄があれば、診断が確定します。

- ①病状が進行すれば、足の切断を余儀なくされ、生活の質が非常に落ちる。
- ②動脈硬化は全身の動脈でおきるので、脳梗塞・心筋梗塞(狭心症)・腎機能障害も隠し持っている率が高い。
- ③早期発見と予防が非常に重要である。



なによりも早めの発見と生活習慣病の予防が大切ですので、お心当たりの方は病院受診をお勧めします。

研修医 小澤 博嗣